

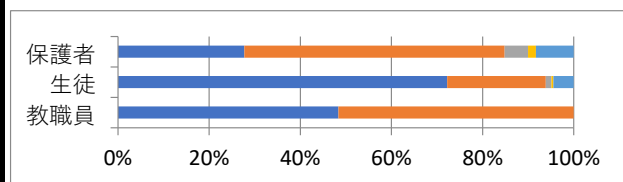
# 令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

## ①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

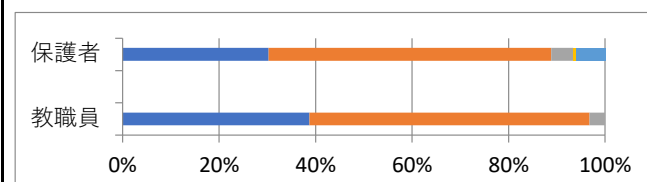
### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



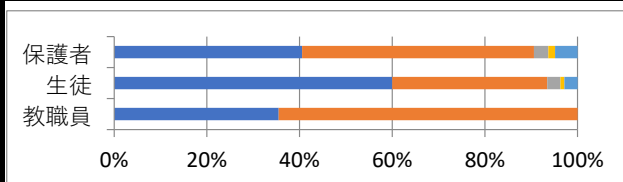
#### 考察

・設問1・2ともに、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。子ども・教職員では、肯定的意見がやや増加している。保護者への連絡を密にすること、道徳授業等の様子を発信する必要がある。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

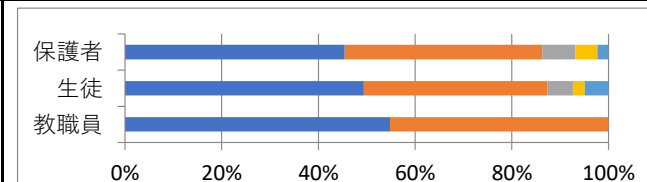
### 3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



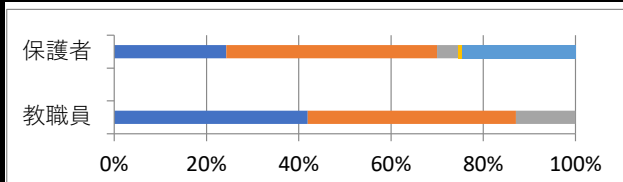
#### 考察

・設問3では、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。子どもでは、「そう思わない」と答えた数が若干名いる。教職員では、「そう思う」と答えた数がやや増加している。設問4では、令和4年度と比較すると保護者・子どもでは、「そう思わない」と答えた数が微増している。教職員では、逆に「そう思わない」と答えた数が若干減少している。タブレットを有効活用した授業改善に今後も継続して取り組むこと、実践の様子を発信することが必要である。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

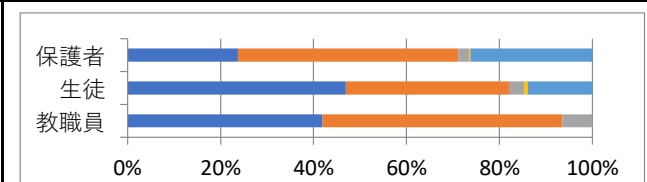
### 5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



#### 考察

・設問5では、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。設問6では、令和4年度と比較すると保護者・子どもでは、肯定的意見が若干減少している。教職員では、肯定的意見がやや増加している。学級支援員・教育活動アシスタントを中心に支援を行っている。「わからない」という意見が多いので、情報発信が必要である。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止		8 家庭や地域との連携協力	
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。		学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>		<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>考察</p> <p>・設問7では、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。子どもでは、肯定的意見がやや増加している。設問8では、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。教職員では、肯定的意見がやや増加している。環境面の整備等に尽力してきた。学校保健委員会等でも、安全教育に取り組み、情報発信を行ってきたい。</p>			

⑤ 気持ちのよい挨拶と健康な生活（学校独自）

9 気持ちのよい挨拶①		10 気持ちのよい挨拶②	
あなた自身は、進んで気持ちのよい挨拶をしていますか。		白山小の子供たちは、進んで気持ちのよい挨拶をしていますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>		<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>考察</p> <p>・設問9では、令和4年度と比較すると保護者・子ども・教職員ともに、肯定的意見がやや増加している。設問10では、令和4年度と比較すると保護者の肯定的意見が若干減少している。教職員の肯定的意見はやや増加している。挨拶は、年々よくなっている。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>			

⑤ 気持ちのよい挨拶と健康な生活（学校独自）

11 健康な生活	
白山小の子供たちは、おひさま元気カード等により、健康的に過ごそうとしていますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>考察</p> <p>・設問11では、令和4年度と比較すると保護者では、肯定的意見が若干減少している。教職員では、肯定的意見がやや増加している。取組を継続すること、子どもたちの変容を発信することに取り組む必要がある。</p>	

## 来年度の具体的な取組について

- ・ 道徳や心の教育をさらに充実させる必要がある。日頃より学級通信等で道徳や人権に関する子どもたちの学びの様子を発信し、保護者との共通理解を図る。
- ・ 授業力向上では、校内研修の充実を図る。また、日常の授業に自由進度学習等を取り入れ、個別最適な学び・協動的な学びを意識した授業改善に取り組んでいく。
- ・ 学校保健委員会では、安全教育をテーマにした取り組みを今後検討していきたい。

## 学校関係者評価

- ・ 今年度は数年ぶりに多くの方々と接する機会が増えた。今後も微力ながらも子ども達のために協力していきたい。
- ・ 設問7「安全と事故防止」について前年度に比べ数値が上がっているということは、子ども達が学校や先生方の考えや活動を受け止めて感じてくれていると思った。
- ・ 設問8「家庭や地域との連携協力」の設問での回答が来年度は肯定的意見が増える様に、誰が何のために行っている事業なのかを十分に説明する必要性を感じた。
- ・ 昨年度と比較して大きな変化は伺えない。毎日、校長が写真入りの学校便りを発信してくれるおかげで、今学校で子供達は何に取り組んでいるのかりアルタイムで把握でき、非常に有り難い。保護者は我が子の学級、学年以外の情報も入り、学校教育への関心が高まることに加え、安心して我が子を学校に送り出せることに繋がっていると思う。保護者や地域からの信頼を得るには、学校からの積極的な情報発信が非常に大事であると常を感じている。校長は大変であろうが、是非続けて欲しい。
- ・ 全般にわたり保護者の「わからない」の回答率が増えている。この、「わからない」の意味が何なのかが気になる。例えば、知る機会が無いのか、知ろうとしない。つまり興味が無いのかでは大きく意味が異なる。